

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		にじの丘				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6人	1人		利用者が殆ど車椅子使用なので、布団や車椅子で活動スペースが狭く感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7人			人数調整をして、安心、安全な環境で活動できる様に継続していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2人	5人		下駄箱やトイレは分かり易くなっているが、トイレや廊下が狭く、介助がしにくいとの意見があったので、改善に努められる様、話し合っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4人	3人		利用者が殆ど車椅子使用なので、活動スペースが狭く感じるとの意見があったので、安全に過ごせる空間について考えていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7人			今後も継続していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2人	5人		午前午後と利用児童がいるため、話し合う時間が中々取れない現状があるが、ヘルプ職員をいれるなどし、職員が振り返り、話し合いが行える環境設定をつくる。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3人	4人		評価表の結果やご意見を業務改善につなげていけるよう、努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5人	2人		午前午後と利用児童がいるため、話し合う時間が中々取れていないので、早急に改善に努める。また職員面談等で個々の意見も聴ける様に配慮する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2人	5人		保護者アンケートを実施し、改善に取り組みたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5人	2人	研修の内容を議事録にまとめ、共有できるようにしている。	研修の機会はあるが少ない。得た情報は職員間で共有していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7人			今後も継続していく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6人	1人		今後も継続していく
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7人			今後も継続していく
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6人	1人		職員全員でカンファレンスを行っている。今後も利用者の状況を捉えながら、必要な支援を提供していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4人	3人		アセスメントの確認はおこなっている。今後も職員全員が周知しているか確認しながら継続していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7人			ガイドラインについての学習会を行い、理解を深め、具体的な支援につなげていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7人			利用者や保護者の意見も踏まえながら、活動プログラムを今後も検討していく。また、しっかり職員全員で話し合える場を設けられる様に努めていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6人	1人	利用者や保護者の意見も踏まえながら、活動プログラムを担当職員を毎日替え、プログラムを考えている。	今後は、職員の負担の軽減も視野に入れつつ、支援を考えていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5人	2人	集団活動を重視しているが、限られた時間の中で、個別活動にも取り組んでいる。	個々のニーズを捉え、個別活動の充実にも努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6人	1人		今後も、朝や養護引き取り後の申し送りがしっかり出来るように努めていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1人	6人	送迎の関係上、振り返りができない場合は、翌日の朝礼時に情報共有を行っている。	午前午後と利用児童がいるため、話し合う時間が中々取れないとの意見があった。日報の作成や支援終了後の振り返りの徹底など、情報共有を綿密にしていくための時間配分が今後の課題なので、早急に解決に努めたい。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6人	1人		個々の支援内容を日々詳細に記録し、支援の充実を図っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6人	1人		午前午後と利用児童がいるため、全員揃って話し合う時間が中々取れないとの意見が多かった為、改善に努めていく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	5人	2人		ガイドラインについての学習会を行い、理解を深め、具体的な支援につなげていく。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7人		子供が考え、選択できる保育を心掛けている。	自分で考え、自己選択できるだけの待つ保育を心掛け、積極的なコミュニケーションで信頼関係を築き、自己を引き出せる様支援していく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6人	1人	情報交換や引継ぎを該当施設及び関係者と行っている。	相談支援事業所との担当者会議が中々開催されていないので、開催出来るように努めていきたい。
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3人	4人		連携を意識し、医師や関係者との漫談等の話し合いが行える機会を設けるなど、意見交換が出来る場を作るなど取り組んでいきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7人			今後も継続していく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5人	2人	利用者の特性や性格、様子等を具体的に伝えている。	得た情報を全スタッフ間で共有できるよう、報告会や記録作成を行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3人	4人		問い合わせや相談等があった場合にも対応できるよう、職員間での意識の共通化を図る。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2人	5人		研修に参加する時間の確保が難しいが、今後は研修への参加も視野に入れたシフト作成を行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6人	1人		お出かけイベントや地域活動への参加等で活動する機会を設けていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1人	1人		協議会の開催日程を把握していないので、情報収集に徹底し、積極的に参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7人			連絡帳のやり取りや面談だけではなく、保護者様と連絡が取れる関係性を積極的に築いていけるよう心がけていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1人	6人		保護者支援を継続しつつ、保護者支援の充実を図るためにスタッフの教育を行っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6人	1人		今後も丁寧な対応を心掛け継続していく。
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7人			今後も継続していく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7人		同意を得ている	今後も継続していく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7人			今後も継続していく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5人	2人		親子参加のイベントは開催しているが、もっと多くの保護者様に参加し、幅広い交流が出来るように、参加しやすい、オンライン開催などの代替手段を模索していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7人			今後も継続していく
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7人			今後も継続していく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7人			今後も継続していく
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7人			今後も継続していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2人	5人	安全確保という状況特性上、公開イベントなどが開催できない。	安全を確保を考慮した上で、地域の方向けのオンラインイベントや広報誌の配布等、代替案を模索していく。

非常 時等 の対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マ ニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を 実施しているか。	6人	1人		保護者等に取り組みが認知されづらいため、月の防災訓練 や防災に関する学習など、利用者の防災意識を高める取 組みを行う。等、今後周知していけるようにしていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避 難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7人			今後も継続していく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7人			今後も継続していく
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされてい るか。	7人			今後も継続していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる 等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7人			今後も継続していく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づ く取組内容について、家族等へ周知しているか。	6人	1人		保護者等に取り組みが認知されづらいため、月の防災訓練 や防災に関する学習など、利用者の防災意識を高める取 組みを行う。等、今後周知していけるようにしていきたい
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしてい るか。	7人			事例集計の作成や、些事でも記録することで危機管理意 識を高めるよう意識しているので、今後も業務改善に繋げてい く様に、継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7人			研修が実施される場合は多くの職員が積極的に参加し、職 員間でも注意喚起を行うなど、一層の改善を意識して行っ ていく。また、委員会でも意識向上していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こ どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に 記載しているか。	7人			今後も継続していく	